



(特集：パネルディスカッション I (第31・32回合同年次学術集会より))

序文 (巻頭言): 「検査室のロボット化・AI化 現状と未来」

荒木 秀夫

Preface: Robotics and AI in laboratories: Current status and future

Hideo Araki

Summary This panel discussion focused on robotics and artificial intelligence (AI) in laboratories. This also reported the efforts of the Department of Clinical Laboratory, Fujita Health University Hospital, which is currently promoting a facility-wide smart hospitalization, and the current status of a new laboratory of SRL Corporation, which is introducing the latest technologies in Robotics and AI. Afterwards, speakers and two young clinical technologists discussed how to approach the inevitable future of robotics and AI in clinical laboratories and how to get involved in the process.

Key words: Robotics, AI, Automation

第31・32回生物試料分析科学会合同年次学術集会では、「臨床検査のピボット」をメインテーマに、～変革を遂げる医療技術を探る～と題してパネルディスカッションを企画した。パネルディスカッション I では、関東支部と東海・北陸支部の合同企画とし「検査室のロボット化・AI化 現状と未来」をテーマに2名の講師より検査室のロボット化とAIに関する現状と今後の展望について非常に興味深い示唆に富んだ講演をしていただいたので報告していただくこととした。また、パネルディスカッションとして、講演いただいた講師2名および関東支部と東海・北陸支部の若手の臨床検査技師をパネリストとして向かえ総合討論を行い、その内容について取りまとめを行ったので紹介することとした。

本パネルディスカッションでは、検査室の

ロボット化、AI化に焦点をあて、現在施設をあげてスマートホスピタル化を推進している藤田医科大学病院の臨床検査部における取り組みと、ロボット化とAIについて最新の技術を導入している株式会社エスアールエルの新たなラボの現状について報告していただいた。その後、講演者および2名の若手臨床検査技師を交え、今後避けて通ることの出来ないと思われる検査室のロボット化、AI化について、どのように捉え、どのように関わって行くのが良いのかといったディスカッションを行ったので参考にしていただきたい。

1970年代に生化学用汎用自動分析装置が開発され、その後、モジュール化による施設規模に合致させた連結装置の導入、そして自動検体搬送分注システムの開発・導入がなされ、業務の効率化と人員の省力化に貢献する形と

株式会社東京未病センター TMC日本橋ラボ
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4丁目55
藤ビル2F

E-mail: arakieru@yahoo.co.jp

Tokyo Mibyo Center TMC Nihonbashi Laboratory,
4-55 Nihonbashihongoku-cho, Chuo-ku, Tokyo 103-
0021, Japan

なり、人員の採用が困難な時代を経験し、現在に至っている。これからロボット・AI・オートメーション技術は、ここ5年間でさらに検査室に適合したシステムとして開発され、10年後には現場に導入されてくることは、避けて通れない道程と想定している。無人化・省力化に向けた検体検査室の将来像を見据えるにあたり、確かな情報を入手することが重要であると考え、本パネルディスカッションを

企画させていただいた。今後、すべての業務がロボット・AIに置き換えられるわけではなく、臨床検査技師として人間だからこそできることを考える、いい機会と捉えていただき、大きな変革が訪れる未来に向けて準備する上で、今回の情報提供が一助となれば幸いである。

本投稿内容に関する著者の利益相反：なし